

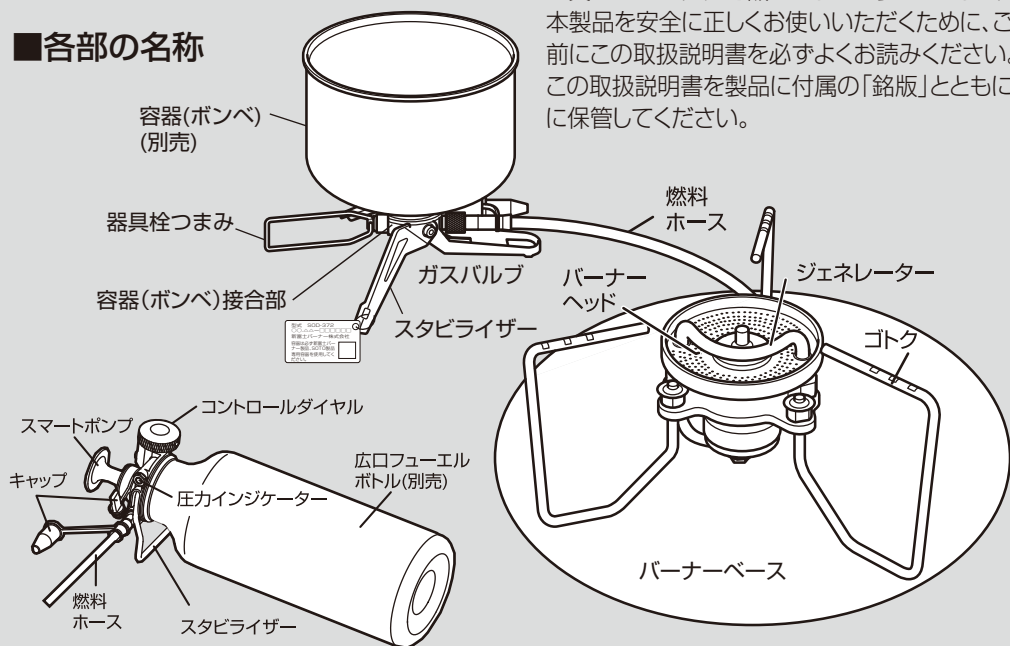
StormBreaker

ストームブレイカー SOD-372

取扱説明書

〈生産物賠償責任保険付・保証書付〉

■各部の名称



このたびは SOTOストームブレイカーSOD-372をお買い上げいただき誠にありがとうございました。本製品を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずよくお読みください。またこの取扱説明書を製品に付属の「銘版」とともに大切に保管してください。

■仕様

外形寸法／幅150X奥行130X高さ90mm

(使用時・本体のみ)

幅65X奥行65X高さ90mm

(収納時・本体のみ)

重量／225g(本体のみ)

／合計448g(本体：225g、ガスバルブ：53g、スマートポンプ：170g)

材質／ゴトク・器具栓つまみ・バーナーヘッド

：ステンレス、ジェネレーター：真鍮

使用燃料／LPG液化ブタン、自動車用レギュラー

ガソリン、ホワイトガソリン

ガス消費量*／150g/h(LPG(液化ブタン)使用時)

付属品／収納ポーチ、バーナーベース、メンテナンスキット

(*気温25℃無風状態で点火後から30分間の燃焼データより算出。)

目次

特に注意していただきたいこと(ボンベ使用の場合)	2
特に注意していただきたいこと(ボンベ、ガソリン共通)	3
使用方法(ボンベ使用の場合)	4~5
使用上の注意・故障・異常の見分け方と処置方法(ボンベ使用)	6
組立図／付属品／別売品	7
特に注意していただきたいこと(ガソリン使用の場合)	8
使用方法(ガソリン使用の場合)	9~13
故障・異常の見分け方と処置方法(ガソリン使用の場合)	13
メンテナンス(ボンベ、ガソリン共通)	14~15
アフターサービス	16

屋外専用

◆特に注意していただきたいこと【容器(ボンベ)使用の場合】

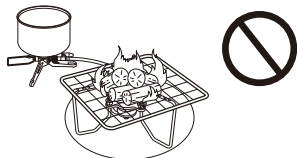
イラストの横にある  マークは禁止を表します。

 **警告** (取扱を誤った場合、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

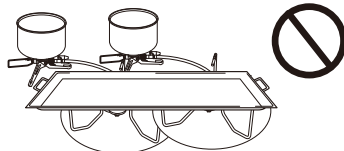
■使用容器(ボンベ)過熱注意

以下のような使い方は厳禁！容器(ボンベ)が過熱し爆発又はバーナーの変形の原因となります。

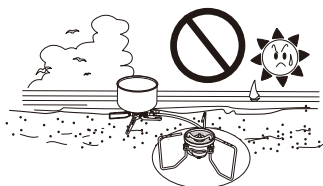
●炭の火起こしなど炭をのせての使用



●こんろを2台以上ならべての使用

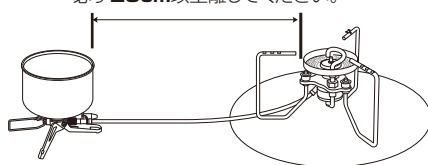


●夏の砂浜など日光によって容器(ボンベ)が過熱するような場所での使用



●使用時は、バーナーと容器(ボンベ)を必ず25cm以上離して使用してください。

必ず25cm以上離してください。



■使用容器(ボンベ)の取扱上の注意

●使用容器(ボンベ)はSOTO製品の専用容器(ボンベ)を必ずご使用ください。

●容器(ボンベ)に表示されている注意事項をよく読んでからご使用ください。

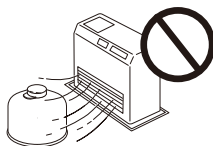
●使用容器(ボンベ)は、火気や直射日光(室内や車内の窓際など)を避けてキャップをして風通しの良い湿気の少ない40℃以下の場所に保管してください。



●使用容器(ボンベ)を火の中に投げないでください。爆発して危険です。



●使用容器(ボンベ)をファンヒーターの前など熱気のあたる場所に放置しないでください。熱で容器(ボンベ)の圧力が上がり爆発する危険があります。



●保管してある容器(ボンベ)は、時々点検してサビが発生している場合にはできるだけ早くご使用ください。

●使用中は時々正常に燃焼していることを確認してください。

■使用済み容器(ボンベ)の処理に関する注意

●容器(ボンベ)を振ってサラサラと音がする場合にはまだガスが残っています。そのまま温度の高い所に放置したり、火の中に投入すると爆発する危険があります。

●容器(ボンベ)は完全に使いきってから他のゴミと区別して捨ててください。(各自治体の処理方法に従って捨ててください。)

◆特に注意していただきたいこと【容器(ボンベ)使用時、ガソリン使用時共通】

イラストの横にある  マークは禁止を表します。

警告 (取扱を誤った場合、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

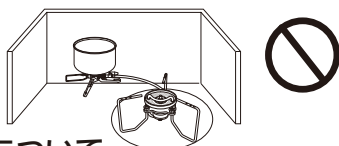
■火災予防のために

- 使用中は本製品から離れないでください。
- こんろの上や周囲に燃えやすいものを置かないでください。
- 落下物の危険のある場所では使用しないでください。
- 燃えやすいものからは、30cm以上離してご使用ください。



■使用場所

- 強い風が吹くときは使用しないでください。風で炎が消される危険があります。
- 屋外専用ですので家の中、テントの中、車の中では絶対に使用しないでください。一酸化炭素中毒死や酸欠による窒息死のおそれがあります。
- 設置面が安定していて、平らで安全な場所に置いてご使用ください。
- 熱により設置面が変形、変色する可能性のある場所では使用しないでください。
- 直射日光を避け、地面の涼しい場所でご使用ください。
- ヒーターやたき火の近くなど熱気があたる場所では絶対にご使用にならないでください。容器(ボンベ)が過熱され爆発する危険があります。
- 風よけのためでも石やブロックおよび板等で全面を囲んだの使用はボンベが過熱し、非常に危険ですのでおやめください。

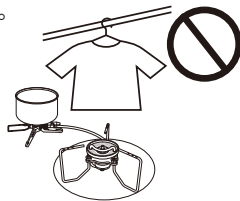


■換気について

- ご使用中は、換気に十分ご注意ください。
- 屋外でも換気の不十分な状態で使用しないでください。不完全燃焼による一酸化炭素中毒の危険があります。

■用途について

- 調理以外の用途には使用しないでください。過熱、異常燃焼などによる焼損や火災などの危険があります。
- 衣類の乾燥などに使用しないでください。衣類が落下して火災になるおそれがあります。



■やけどに注意

- ご使用中およびご使用後は、こんろが高温になっていますのでやけどにご注意ください。
- ご使用の際は、お子さまに十分にご注意ください。
- 点火するときは、顔や手をバーナー付近に近づけないでください。



■異常時の処置

- 燃焼中は、容器(ボンベ)を絶対に取り外さないでください。
- 万一、異常燃焼を起こした場合や緊急の場合は、あわてず器具栓つまみを**右の方向**に回らなくなるまで回して消火してください。それでも消えない場合は、消火器などで消火してください。消火を確認し、器具が冷めてから容器(ボンベ)を取り外してください。
- 器具栓つまみを**右の方向**に回らなくなるまでまわしても消火しない場合は、無理に器具栓つまみを回さず周囲に注意してガスがなくなるまで燃焼させたのち点検修理を依頼してください。

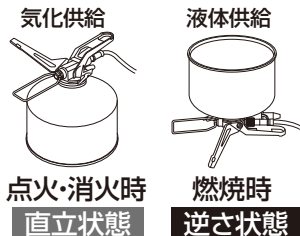
■補助具についての注意

- 鉄板、焼き網、セラミック製品、ダッチオーブン、スモーカー等の補助具は指定のもの以外は使用しないでください。事故の原因になります。

◆使用方法【容器(ボンベ)使用の場合】

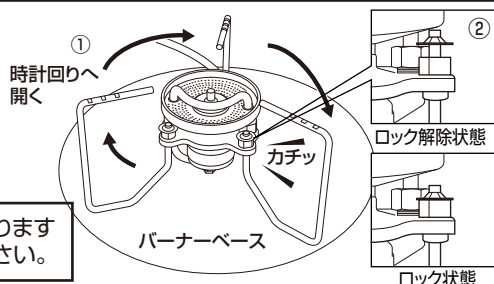
ストームブレイカーは、ガスとガソリン両方の燃料を使用できるようにジェネレーターを装備しています。容器(ボンベ)を使用する際は、ジェネレーターへ燃料を液体状態で送り込む必要があるため、容器(ボンベ)を逆さにし、「液体供給」にして使用します。

ただし、ボンベの取り付け、点火、消火の際は、容器(ボンベ)を直立状態にして行ないます。「液体供給」の燃焼構造でも、外気温の影響により火力の低下が生じますので、目安として気温が0℃以下の環境ではガソリンの使用をおすすめします。



1 バーナー部のセット

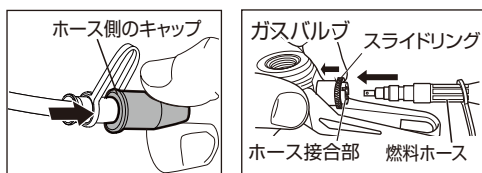
- ① 3本のゴトクを時計回り方向へ開きます。
- ② ゴトクの付け根が「カチッ」と止まり「ロック状態」になっていることを確認します。
- ③ 設置面にバーナーベースを敷き、バーナーを中央に置きます。



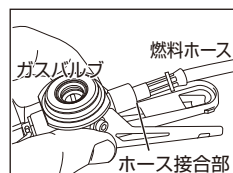
⚠ 燃焼時の輻射熱により影響を受ける場合があります
注意 ので樹脂等のテーブルでは使用しないでください。

2 燃料ホースの取り付け

- ① ホース側のキャップを外し、ガスバルブ側のスライドリングをスライドさせながら、ホース接合部と燃料ホースを接続します。

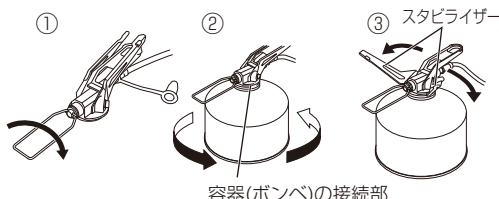


- ② ガスバルブのホース接合部と燃料ホースがしっかり接続されていることを確認します。



3 容器(ボンベ)の取り付け

- ① 器具栓つまみを右の方向に回らなくなるまで回し、完全に閉じていることを確認します。
- ② 容器(ボンベ)の接続部を上にして、容器(ボンベ)を矢印方向(右ネジ)に自然に止まるよりややきつめに締め取り付けます。
- ③ スタビライザーを広げます。



⚠ 警告

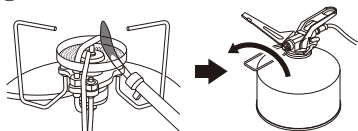
- ホースの接続部に砂などが入り込まないように注意してください。砂などが付いた状態で接続すると燃料漏れや、詰まりの原因になります。ホースの接続部に雪等の水分が付いて凍ると燃料通路がふさがれ、ガスが出なくなります。氷点下では雪等の水分が付かないようご注意ください。もし燃料通路が凍結した場合、体温で温める等して氷を解かし、燃料通路を確保してください。
- ガス漏れに注意してください。容器(ボンベ)取り付け後、必ずガス漏れの音やガスの臭気がしないか確認してください。
- 燃焼中に持ち運んだり、容器(ボンベ)を動かしたりすると、やけどや火災の危険があります。燃焼中は、絶対に動かさないでください。

◆使用方法【容器(ボンベ)使用の場合】

4 点火

①容器(ボンベ)を直立させたままマッチ、ライター等を点火し、器具栓つまみを左の方向に少し回してガスを出し点火します。

①



②約5秒後、炎が安定したら容器(ボンベ)の接続部をゆっくり下側に向けます。(逆さにします)

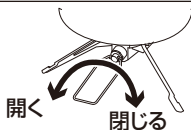
②

約5秒後、逆さ状態



ボンベを逆さ状態で点火すると生ガスが出て危険です。
注意 また強風時や不整地では逆さ状態のボンベが転がらないようご注意ください。

※ボンベを直立状態のまま燃焼させ続けると異常燃焼により、ジェネレーターの劣化の原因となりますので必ず点火の約5秒後に逆さ状態にしてください。



※容器(ボンベ)のガス残量が少なくなると燃焼の際ガスの勢いが波打つ場合がありますが異常ではありません。

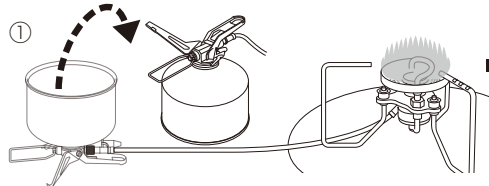
5 火力の調節

火力の調節は、炎を確認しながら器具栓つまみを少しづつ回して行います。

6 消火

①容器(ボンベ)をゆっくりと回転させ、上側に向けます。(ボンベを直立にする。)

①



②約5秒後、器具栓つまみを右の方向に回らなくなるまで回し、消火を確認します。

② 閉じる(右へ回す)



7 容器(ボンベ)の取り外し

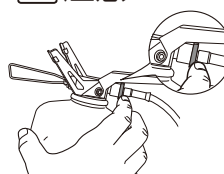
容器(ボンベ)を取り付け時と逆方向へ回し容器(ボンベ)を取り外します。



警告 容器(ボンベ)は取り外して保管
容器(ボンベ)を付けたまま保管すると、落下や衝撃などでガスが出たり発火するおそれがあります。必ず容器(ボンベ)を取り外して保管してください。



注意 スライドリングの誤作動に注意



容器(ボンベ)を下側や上側に向けるとき、スライドリングに指を掛けるなど、スライドリングを誤って動かさないようご注意ください。燃料ホースが外れるおそれがあります。

8 収納

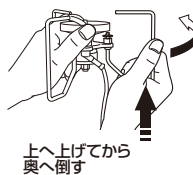
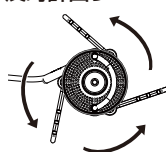
バーナー部が完全に冷めてからセット時と逆の手順で収納します。

①ゴトクを上にならずし、ロック解除状態にしながら**反時計回りに倒し「カチッ」と止まるまで固定させて収納**します。

②収納ポーチに収納します。

※収納時に時計回りに倒した場合、ホースが無理に曲がりホースの損傷につながります。

反時計回り



上へ上げてから
奥へ倒す

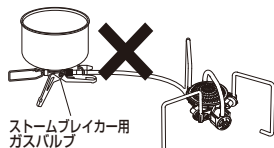
「カチッ」と止まる
まで倒して固定する

◆使用上の注意（禁止事項）

- 燃料ホースが曲がり、ホースが火口に近い状態で燃焼した場合、熱によりホースが劣化し、燃料漏れの原因となります。必ず伸ばした状態でご使用ください。
- 燃料ホースが90度以上曲がるような扱いはしないでください。燃料漏れの原因となります。
- ジェネレーターは、予熱不要にするために非常に精密な設計が施された部品です。物を突き当てたり落としたりして変形した場合は交換が必要になりますので、丁寧に扱ってください。



ガスバルブに MUKA ストープを接続しての使用禁止



MUKA ストープをストームブレイカーのガスバルブに接続して使用しないでください。

MUKA ストープはガソリンの燃焼に特化した構造になっていますので、ガスの燃焼をした場合、異常燃焼、また器具が破損するおそれがあります。

◆日常の点検・手入れ【容器(ボンベ)使用の場合】

点検・手入れの際のご注意

- 日常の点検・手入れは必ず行ってください。
- 特に煮こぼれたときは、必ずバーナーの掃除を行ってください。
- 故障又は破損したと思われるものは使用しないようにしてください。
- 不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店又は当社「お客様係」☎0120-75-5000までご相談ください。
- ノズル詰まりのメンテナンスについてP.15をご覧ください。定期的に行なってください。

点検・手入れ

- 点検・手入れの前には、必ず容器(ボンベ)を取り外し、こんろが完全に冷めてから行ってください。
 - バーナーを除くガス通路部分は絶対に分解しないでください。
- 本 体…汚れ、水気を放置すると故障等の原因になります。使用後は乾いた布でよくふいてください。汚れの落ちにくいときは、中性洗剤で汚れを落とし乾いた布で水気を十分とってください。
- バーナー…バーナーの目詰まりは不完全燃焼の原因になります。煮こぼれ等で汚れたときは必ず掃除してください。

◆故障・異常の見分け方と処置方法【容器(ボンベ)使用の場合】

原因 \ 症状	容器(ボンベ)がセッ トできない	ガス が出ない	消火 しない	ガス のにお い	点火 しない	バー ナーに 火移 りしない	火力 が弱い	炎が 不揃い	使用中に火が 消える	処置方法
容器(ボンベ)の取り付け不良	○	○		○	○					容器(ボンベ)を取扱説明書どおりに取り付ける
器具栓の故障		○	○	○	○					点検、修理を依頼する
器具からの漏れ				○						メンテナンスをする。 P.15参照 又は修理依頼する。
ガスがなくなっている (少なくなっている)		○			○	○	○		○	新しい容器(ボンベ)に取り替える
バーナーの目詰まり					○	○	○	○	○	金属ブラシなどで掃除する
点火操作が適切で はない					○					正しい点火操作をする
ノズルが詰まっ ている		○			○	○	○		○	メンテナンスをする。 P.14参照

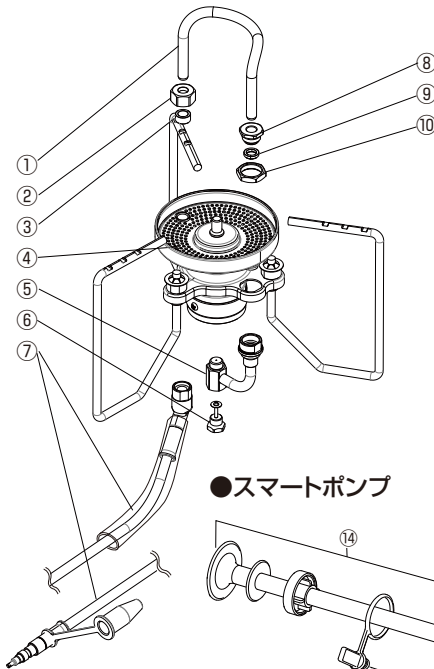
※容器(ボンベ)の温度が低い場合には、火力が弱くなることがありますが器具の故障ではありません。

◆組立図／付属品／別売品

■組立図

●バーナー本体

●ガスバルブ



●スマートポンプ

●バーナー本体

1. ジェネレーター
2. ジェネレーターナット
3. スペーサーリング (真鍮)
4. バーナーヘッド
5. ノズルユニット
6. エンドキャップ
7. 燃料ホース
8. プレッシャーナット
9. スペーサーリング (ステンレス)
10. 固定ナット

●ガスバルブ

11. 器具つまみ
12. スタビライザー
13. スライドリング

●スマートポンプ

14. ピストンユニット
15. カプラーキャップ
16. ピストンパッキン
17. Oリング P-34
18. シリンダーユニット
19. ポンプフィルター
20. 逆止弁ホルダー
21. Oリング 13.8x2
22. Oリング S-3
23. 逆止弁
24. 逆止弁スプリング
25. 逆止弁ノズル
26. 燃料フィルター

付属品

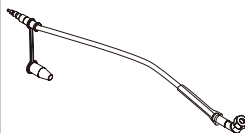


メンテナンスキット
(マルチツールA.B, OリングP-34, シリコングリス、
掃除針、燃料フィルター)

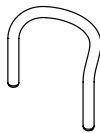


バーナーベース

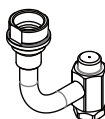
別売品



交換用ホースユニット
SOD-3721



交換用ジェネレーターユニット
SOD-3722



交換用ノズルユニット
SOD-3723



フューエルボトル
キャップ SOD-455



広口フューエルボトル
400ml SOD-700-04
700ml SOD-700-07
1000ml SOD-700-10

●使用容器 (ボンベ)

SOTO製品専用容器(ボンベ)
パワーガストリプルミックス



SOD-750T



SOD-725T



SOD-710T

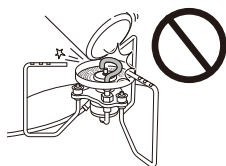
◆特に注意していただきたいこと【ガソリン使用の場合】

イラストの横にある  マークは禁止を表します。

警告 (取扱いを誤った場合、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

●火気のあるところや、喫煙しながらの給油作業は非常に危険です。引火してやけどをする危険があります。

●ジェネレーターは、予熱不要にするために非常に精密な設計が施された部品です。物を突き当てたり落したりして変形した場合は交換が必要になりますので、丁寧に扱ってください。



●燃料ホースの先端、及び燃料ホース接続部には砂などが付かないよう注意してください。砂などが付いたまま使用すると燃料漏れや、つまりの原因となりますので注意してください。

●燃料ホースが90度以上、曲がるような扱い方はしないでください。燃料漏れの原因となります。



●燃料ボトルは必ずSOTO専用の広口フューエルボトルをご使用ください。また、SOTO広口フューエルボトルに記載されている「使用上の注意」をよく読んで使用してください。

●点火時にはこんろの真上に顔や体などを絶対に近づけないでください。**着火と同時に大きな炎が立ち上がるため、やけどの危険があります。**

●火をつけたまま本製品から離れないでください。

●燃焼中にこんろを持ち運んだり、動かしたりしないでください。大きな炎が立ち上がり危険です。

●こんろが完全に冷えるまで、絶対に触らないでください。使用直後は非常に高温になっており、やけどの危険があります。

●燃料を保管する際は、キャップをしっかり締めて涼しい所に保管してください。直射日光の下や車の中等高温になる所に燃料を放置しないでください。フューエルボトルが爆発するおそれがあります。



●フューエルボトルを収納する時は、専用のボトルキャップを取り付けて、フューエルボトルの口の部分を保護してください。持ち運ぶ際は、フューエルボトルからスマートポンプを外す必要はありません。**(約1週間以内を目安としてください。)**その際コントロールダイヤルを必ずロックしてください。

●保管する際や、長期間**(1週間以上)**使用しない場合は、フューエルボトルからポンプを取り出して、ボトルキャップをしっかり締めて保管してください。その際、ボトル内の圧力は必ず抜いてください。

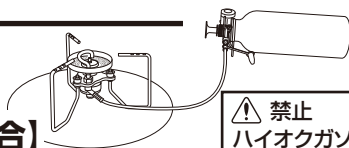
●フューエルボトルを開けた際、スマートポンプのOリング、またボトルキャップのOリングが内圧によりボトルの口からはみ出すことがあります。その際はOリングを正しい位置に戻して作業を継続してください。

●気温がマイナス20℃以下の場合、Oリングが硬くなり一時的に弾性を失い燃料漏れの原因となる可能性があります。気温がマイナス20℃以下になる場所では使用しないでください。

●雪の上でこんろを使用する場合、こんろの下に雪が解けてこんろが傾き、調理中の鍋等が落下することがありますので注意してください。

◆使用方法【ガソリン使用の場合】

ガソリンでの使用方法



1 使用燃料について【ガソリン使用の場合】

⚠ 自動車用レギュラーガソリン、またはホワイトガソリンのみ

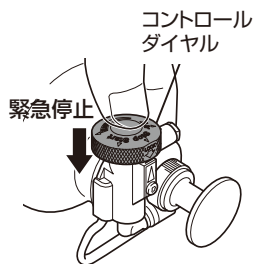
- ハイオクガソリンは使用しないでください。ハイオクガソリンはオクタン価を向上させるための添加物が入っているためノズル詰まり等の原因になります。
- 異なる種類の燃料を混ぜて使用しないでください。エンジンオイルなどはカーボン発生の原因となり、ノズル詰まりにつながりますので混入しないよう、十分にご注意ください。
- 古い燃料は使用しないでください。ノズルが詰まる原因になります。
- ガソリンは揮発性の高い燃料です。取り扱いには十分に注意してください。

2 コントロールダイヤルの使用方法

◆“ロック”の位置：コントロールダイヤルを押し込むとロックされた状態になります。使用しないときはロックの状態にしてください。

※ロックされた状態でもコントロールダイヤルを回すことはできますが、作動はしません。これにより誤操作を防止します。

◆緊急停止（燃料とAIR、両方の供給を停止）：燃焼中でも、コントロールダイヤルを押し込みロックの状態にすることで緊急停止させることができます。（コントロールダイヤルがどの位置であっても停止します。）※ホースなどの燃料通路には若干の燃料が残っているため、これが燃え尽き消火するまでには多少の時間を要します。

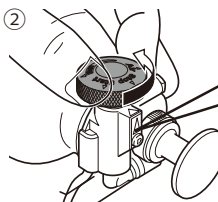
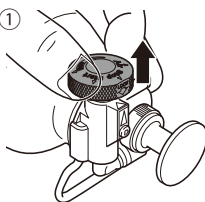


◆“ロック解除”の位置：

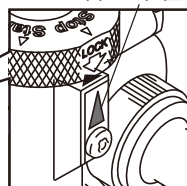
使用時にはコントロールダイヤル①を引き上げてロックを解除します。

①コントロールダイヤルを引き上げ、ロック解除します。

②コントロールダイヤルを回すと「Stop」・「Start」・「Run」・「Air」の4つの操作ができます。



コントロールダイヤル
合わせ位置



⚠ **注意**

通常、消火する際は「Air」に切り替えて消火をしてください。「Air」に切り替えボトル内の圧力を抜きながら、ホース内の燃料を排出することで、次の点火が安定し、また携帯時にガソリンが垂れる事を防ぎます。

3 バーナー部のセット、給油

バーナーベースを設置面に置きます。

燃焼時にはテーブルを傷める可能性がありますので、樹脂等のテーブルの上で使用される際は変形等にご注意ください。

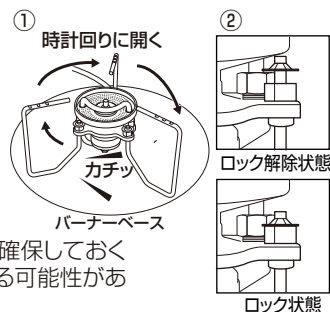
①3本のゴトクを時計回りに開きながら広げます。

②ゴトクの付け根が「ロック状態」になっていることを確認します。

③“MAX FILL LEVEL”の線を越えないように給油します。

※“MAX FILL LEVEL”の線を越えないように給油してください。

“MAX FILL LEVEL”より上は、圧力を入れるための空気室として確保しておく必要があります。空気室の確保が不十分な場合、スタートに失敗する可能性があります。※火気のあるところでは給油作業をしないでください。



◆使用方法【ガソリン使用の場合】

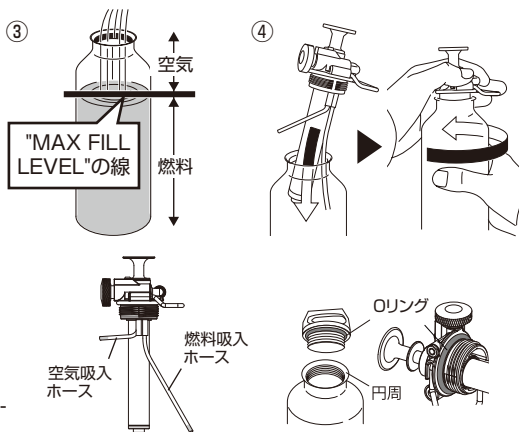
④スマートポンプをセットします。この時まで燃料ホースは接続しないようにしてください。

※使用前には、必ずフューエルボットの口やポンプのOリングにゴミが付着していないか、キズがついていないか、また、フューエルボットの口が歪んでいないかを確認してください。ゴミが付着している場合は取り除き、キズ、歪みがある場合は使用せずに、新しいものに取り替えてください。

※スマートポンプの空気吸入ホースおよび燃料吸入ホースを傷つけないよう注意してください。

※空気吸入ホースと燃料吸入ホースが正しい向き(右図参照)になっているか確認してください。

※スマートポンプ取り付けの際、逆止弁ノズル(組立図25)が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合はマルチツールを使って締めてください。



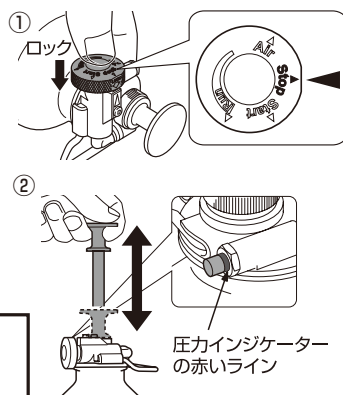
4 ポンピング

①コントロールダイヤルがロックされていることを確認し、「Stop」の位置(カチッと音のするところ)に合わせます。

②フルストロークでポンピングします。燃料を「MAX FILL LEVEL」まで給油した場合、圧力インジケーターの赤いラインが見えるまでポンピングします。

※700mlボトル満タン時(480ml給油時)のポンピング回数の目安は約70回です。ボトルの大きさ、給油量により変わります。

給油量が少ない場合に限り、赤いラインが見えるまでポンピングしなくても、安全にスタートさせることができます。これによりスタート時のポンピング回数を減らすことができ、また赤い大きな炎(生火)の発生も抑えることができます。



警告

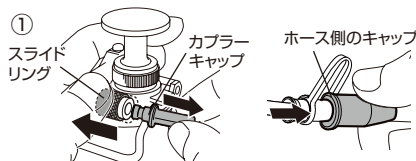
●赤いラインが見えた後ポンピングを続けても、圧力インジケーターがさらに出てくることはありません。ポンピングを続けると、フューエルボット内の圧力が上がり過ぎ、スタート時に赤い大きな炎(生火)が立ち上がることがあり危険です。

●圧力インジケーターは、過剰な加圧を防止するための目安とするものです。フューエルボットの内圧を測定するような機能は備わっていません。そのため圧力インジケーターは、内圧に応じて稼働する圧力計と同じような稼働はしません。

●低温下で使用した場合、ピストンパッキン(組立図16)が硬化しフューエルボットに圧力が入らない状態になることがあります。その際はシリンダーキャップを外してピストンを取り出し、ピストンパッキンを体温等で温めることで再度圧力を入れることが可能になります。また、ピストンパッキンを指で広げ、付属のシリコングリスを少量塗ってください。

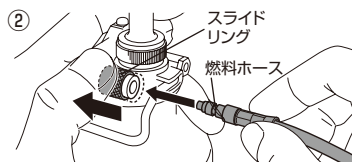
5 ポンプとホースの接続

①スライドリングをスライドさせながら、カプラーキャップを外します。ホース側のキャップも外してください。



◆使用方法【ガソリン使用の場合】

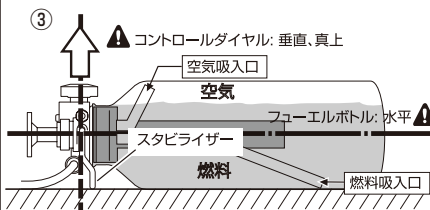
- ②スライドリングをスライドさせながら、ポンプと燃料ホースを接続します。ポンプとホースがしっかり接続されているか確認してください。
- ③スタビライザーを下にして、フューエルボトルを水平な所に横にします。



⚠ 警告

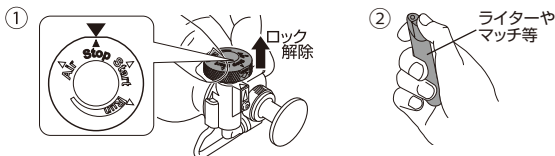
●キャップやポンプおよびホースの接続部に砂などが入り込まないように注意してください。砂などが付いた状態で接続すると燃料漏れや、詰まりの原因になります。ポンプとホースの接続部に雪等の水分が付いて凍ると燃料通路がふさがれ、燃料が出なくなります。氷下では雪等の水分が付かないよう、ご注意ください。もし燃料通路が凍結した場合、体温で温める等して氷を解かし、燃料通路を確保してください。

●フューエルボトルは必ず水平に横にしてください。その時必ずスタビライザーが真下、コントロールダイヤルが常に垂直で真上を向いているようにしてください。



6 点火

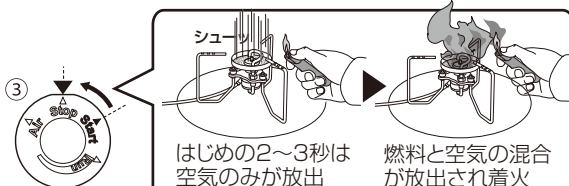
- ①コントロールダイヤルが「Stop」の位置にあることを確認してから、ロックを解除します。
- ②すぐに点火できるように、ライター等を手元に用意します。
- ③ライター等を着火させ、コントロールダイヤルを「Start」の位置に切り替え、点火します。点火と同時に勢いよく赤っぽい炎が上がります。



⚠ 警告

点火時には絶対に顔や体などをこんに近づけないでください。

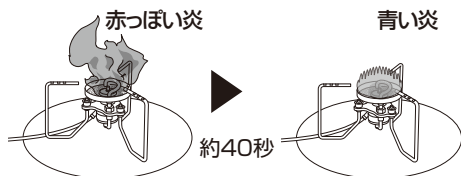
「Start」に切り替えた後、点火しないまましていると燃料がバーナーユニット内にたまり、スタートに失敗します。また、たまった燃料に点火した場合、赤く大きな炎(生火)が立ち上がり危険です。



「Start」の位置にすると、はじめの2〜3秒はシューッという音がして空気のみが放出されます。その後、燃料と空気の混合が発生し、その混合燃料に着火します。

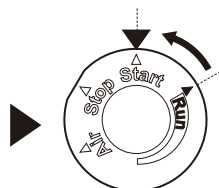
7 炎の安定

- ①「Start」の位置で約40秒燃焼させ、赤っぽい炎が青く変化したのを確認後、コントロールダイヤルを「Run」に切り替えます。(気温25℃、無風状態時)



炎は約40秒で青い炎に変わります。

※外気温や風の影響によって安定するまでの時間は変動します。

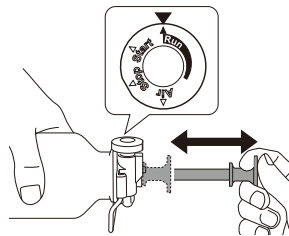


◆使用方法【ガソリン使用の場合】

- ②連続燃焼を維持するために、再度ポンピングして適当な圧力をかけます。
圧力インジケータの赤いラインが見えたらポンピングを終了します。
点火と同時に、最初に入れた圧力のほぼすべてを使い切ります。「Run」
に切り替えたら、必ず適当な圧力までポンピングしてください。

⚠ 警告

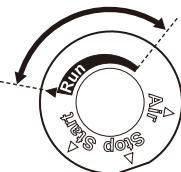
- 「Run」への切り替えが早すぎた場合、赤い大きな炎(生火)が出続けます。その際は「Start」位置へ戻し、ジェネレーターが温まるのを待ってから、再度「Run」へ切り替えてください。
- 忘れずに「Run」へ切り替えてください。「Start」の位置では燃料と空気が同時に噴出します。そのため、「Run」への切り替えを忘れているとフューエルボトルの内圧がどんどん下がり、火力が上がらず調理ができません。
- 圧力インジケータの赤いラインが見えたらポンピングを終了してください。これ以上にポンピングを続けると、赤い大きな炎(生火)が立ち上がる可能性があり、やけどや火災の危険があります。



8 火力調整

「Run」の火力調整範囲内で無段階の火力調整ができます。

火力調整範囲



- コントロールダイヤルを回してから、実際に炎が変化するまで、若干の時間のすれがあります。特に弱火の状態では、徐々にフューエルボトル内の圧力が低下し、炎が消えてしまうことがありますので注意してください。
- 外気温やフューエルボトル内の圧力などにより、とろ火の位置は微妙に異なります。
- 燃焼中、ジェネレーターユニットに多量の水がかかると火が消える可能性があります。
- 風向きによっては吸気孔に炎が巻き込まれ、赤い炎が立ち上がる可能性があります。

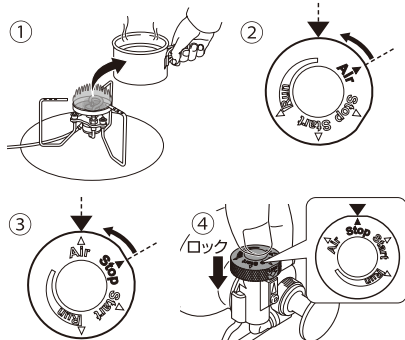
9 消火

- ①調理器具をこんろから下ろします。
- ②コントロールダイヤルを「Air」に切り替えます。この位置では、燃料が遮断され、空気が燃料通路を通過します。「Air」に切り替えた瞬間、一瞬炎が大きくなり、その後フューエルボトル内の圧力を抜きながら徐々に消火していきます。
- ③消火を確認後、コントロールダイヤルを「Stop」に切り替えます。

⚠ 警告

必ず「Stop」に切り替えてください。「Stop」に切り替えずにフューエルボトルを持ち運ぶと、燃料が漏れ出す可能性があります。

- ④誤操作防止のためコントロールダイヤルを押し込みロックします。

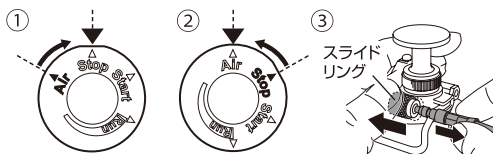


10 燃料ホースとスマートポンプを取り外す

- ①コントロールダイヤルを「Air」に切り替え、フューエルボトル内の圧力を抜きます。

⚠ 警告

圧力がフューエルボトル内に残っていると、ポンプの取り外しが非常に困難になります。また、燃料が吹き出す危険がありますので、必ず圧力を抜ききってください。



- ②コントロールダイヤルを「Stop」に切り替えます。
- ③スライドリングをスライドさせて、燃料ホースを外します。

◆使用方法【ガソリン使用の場合】

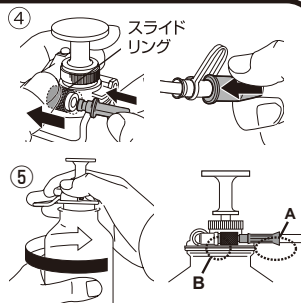
④カプラーキャップを取り付け、燃料ホース側にもキャップを取り付けます。

⑤周囲に火気がないことを確認し、スマートポンプを外します。

●燃料ホースとスマートポンプが接続されていないときは、必ずキャップをしてください。接続部に傷がついた場合、燃料漏れの原因になります。

●スマートポンプを取り外す前に、必ず燃料ホースを外してください。ホースを付けたままポンプを外そうとすると、右図のAの部分に応力がかかり、「てこの原理」が働き、右図のBの部分割れて使用できなくなります。

⑥こんろが完全に冷めたことを確認して収納します。



◆故障・異常の見分け方と処置方法【ガソリン使用の場合】

原因 \ 症状	ポンピングしても加圧できない	スマートポンプとボルトの接合部から燃料が漏れる	燃料が出ない、しこしこ	燃料が出ない、しこしこ	「Start」で大きな炎が立ち上がり安定しない(吸気孔から燃料が漏れる)	「Run」に切り替えても炎が安定しない(青い炎にならない)	火力が弱い	使用中に火が消える	処置方法
燃料がなくなっている(少なくなっている)								○	給油する
燃料の入れ過ぎ(フューエルボルトが傾いている)			○	○					燃料を規定の量に給油しなおし、フューエルボルトが水平な状態であることを確認する
スマートポンプとフューエルボルトの接合部に使用しているOリングにキズや異物が付着している		○							スマートポンプとフューエルボルトの接合部に使用しているOリングを交換する
外気温が低い(氷点下)			○						低温時には燃料に点火しにくくなるため、再度点火操作を行う
点火時に「Start」での位置の時間が短すぎる						○			点火時に「Start」での位置の時間を長めに(40秒前後)してから「Run」に切り替える
ジェネレーターユニットの変形、目詰まりがある					○	○	○		新しいジェネレーターユニットと交換する
「Start」の位置で点火後、「Run」に切り替わっていない								○	点火時に「Start」の位置で約40秒たってから「Run」に切り替える
燃料ホースとスマートポンプの接続が不完全			○					○	燃料ホースとスマートポンプを正しく接続する
コントロールダイヤルの「Lock」を解除していない			○						コントロールダイヤルの「Lock」を解除する
ピストンパッキンに異物が付着している または乾燥している	○								ピストンパッキンに付着した異物を取り除く 付属のシリコングリスを塗る
ポンプの燃料を吸い上げるフィルターが詰まっている			○						燃料フィルターを交換する

⚠警告 上記の箇所以外から燃料漏れがある場合は使用しないでください。当社「お客様保」まで点検・修理を依頼してください。

◆メンテナンス【容器(ボンベ)使用時、ガソリン使用時共通】

⚠ 注意

- ここに記載されていない分解や改造は絶対にしないでください。
- 必ずSOTO純正部品を使用してください。
- 付属のメンテナンスキットをこんろと一緒に携帯してください。
- メンテナンスは、こんろが完全に冷めた状態で作業してください。

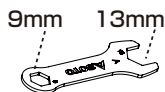
■メンテナンス用付属部品

●マルチツールA

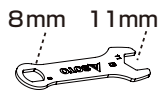
マルチツールを使って部品の交換や、増し締めを行ないます。

●マルチツールB

エンドキャップを外す時に使用します。



マルチツールA



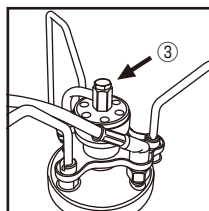
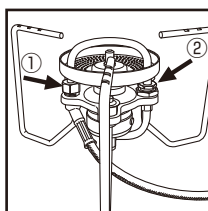
マルチツールB

■各部の増締め

症状／長時間の使用や衝撃によってジェネレーターの接続部やエンドキャップから燃料の漏れを確認した。

マルチツールBで増し締めをし、漏れが無いことを確認の上ご使用ください。

- ①ジェネレーターナットからの漏れ(B 11mm使用)
- ②プレッシャーナットからの漏れ(B 11mm使用)
- ③エンドキャップからの漏れ(B 8mm使用)



■ノズルのカーボン除去

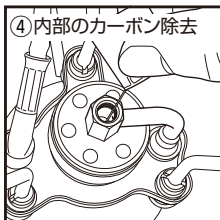
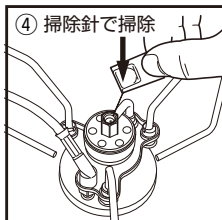
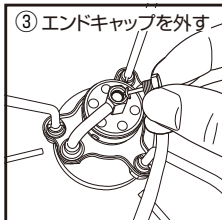
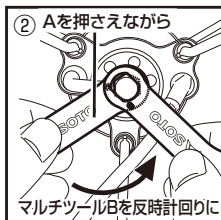
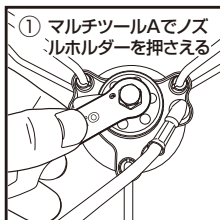
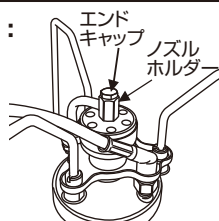
(1) エンドキャップを外してカーボンを除去する

症状／長時間使用し火力低下が生じた。

- ①マルチツールA(9mm)でノズルホルダーを押さえます。
 - ②ノズルホルダーを押さえながらマルチツールB(8mm)で、エンドキャップを反時計回りに回します。
 - ③エンドキャップを取り外します。
 - ④付属の掃除針を使って、ノズル内部に溜ったカーボン等の異物を外部に排出します。
 - ⑤エンドキャップのメッシュに付着したカーボンをブラシ等で取り除きます。掃除終了後、エンドキャップを元の位置に逆の手順で取り付けます。
- ※掃除針は非常に細く無理に力をかけると変形することがありますので注意してください。

メンテナンスの目安：

- ガス 約20時間
- レギュラーガソリン 約10ℓ
- ホワイトガソリン 約10ℓ



◆メンテナンス【容器(ボンベ)使用時、ガソリン使用時共通】

(2) ノズルユニットを外して カーボンを除去する

エンドキャップの掃除をしても火力の改善がみられない時は、ノズルユニットを外して掃除します。

① マルチツール 11mm でプレッシャーナットを緩めて外します。

② マルチツール 13mm で固定ナットを緩めます。

③ ノズルユニットを下方方向に引き抜きます。

※ 抜けにくい場合は、左右に軽く揺らす様にして外すと抜けやすくなります。この時パイプ部分を変形させないように注意してください。

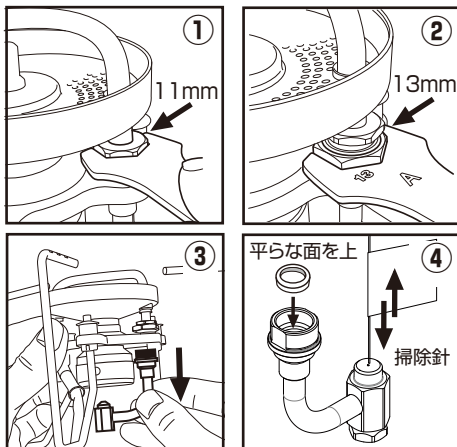
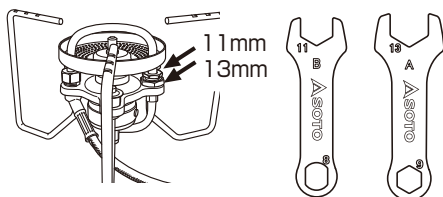
④ 外したノズルユニットのノズル穴の外側から、付属の掃除針を差し込み、抜き差ししてカーボンを排出します。ノズルユニットの中のリングが外れた場合は平らな面を上面に入れてください。

⑤ 掃除完了後、逆の手順で元に戻します。

固定ナットを組み付ける際は、強い力で締め込んでください。

※ 組み立て後は、燃料が漏れていない事を確認の上、ご使用ください。

※ 掃除針は非常に細く無理に力をかけると変形することがありますので注意してください。

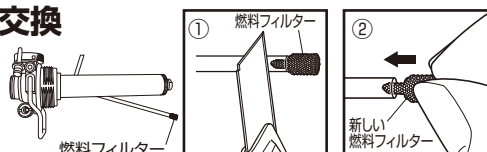


■スマートポンプの燃料フィルター交換

ホース内のフィルターが汚れた時

① ホースをカッタナイフ等の刃物で燃料フィルターが入っているところまでカットします。(約5mm)

② 新しい燃料フィルターをホースに差込みます。

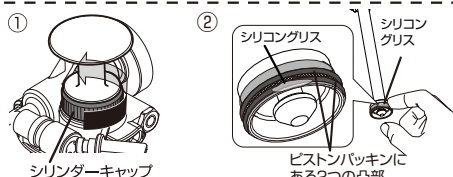


■ピストンパッキンのメンテナンス

① シリンダーキャップを回してピストンを外します。

② ピストンパッキンの2つの凸部の間に付属のシリコングリスを少量塗ります。

③ ピストンを元の位置に戻してシリンダーキャップを締めます。



■交換部品 次のような時には、別売の交換部品をお買い求めの上、部品を交換してください。

● **ホースの交換** (交換用ホースユニット SOD-3721)

ホースが損傷した時。

● **ジェネレーター交換** (交換用ジェネレーターユニット SOD-3722)

誤ってジェネレーターパイプを変形させてしまった時。

● **ノズルユニットの交換** (交換用ノズルユニット SOD-3723)

誤ってノズルユニットを変形させてしまった時。

※ お買い求めは、お買い求めになった販売店又は当社「お客様係」☎0120-75-5000までお問い合わせください。

◆アフターサービス

アフターサービスを依頼する前に、「故障・異常の見分け方と処置方法」を見てもう一度確認してください。ご確認の上、それでも不具合のある場合、

あるいはご不明の場合は、ご自分で修理なさらず、お買い求めになった販売店又は当社「お客様係」
☎ 0120-75-5000までご相談ください。

SOTO ストームブレイカー SOD-372 保証書

この製品は万全を期していますが正しい使用にもかかわらず万一故障した場合は本保証書にお買上げ年月日、販売店名、お名前、ご住所、お電話番号および症状をお書き添えの上、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

製品名・型式	SOTO ストームブレイカー SOD-372	お名前
保証期間	お買上げ日より1年間	ご住所
お買上げ日	年 月 日	お電話番号 ()

取扱販売店・住所・電話番号	症状
---------------	----



新富士バーナー株式会社

保証規定

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

1. 保証期間内に、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意に従った正常なる使用状態において、万一故障した場合には、無料で修理いたします。
2. 修理依頼時には、つぎの事項にご注意ください。
 - ・必ず商品と本保証書をご提示ください。
 - ・保証期間を過ぎた修理依頼も商品と本保証書をご提示ください。
 - ・商品と本保証書の提示のない場合は、修理をお断りすることがあります。
 - ・ご贈答品等で本保証書にお買上げ販売店に修理がご依頼できない場合には、当社「お客様係」☎ 0120-75-5000までご連絡ください。
3. 保証期間内でも、つぎの場合は有料修理になります。

- ・使用上の誤り、不当な修理や改造による故障および損傷。
- ・お買上げ後の落下、移動、輸送等による故障および損傷。
- ・火災、地震、水害、落雷、塩害、弊社指定以外の燃料使用によるもの、その他、天災地変、公害による故障及び損傷。
- ・保証書の提示がない場合。
- ・本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 4. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
- 5. 本保証書は再発行しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

◆製品の経年劣化に関する注意

- ・本製品のガスの接続にはゴム部品が使われていますが、ゴム部品は使用頻度に関わらず年月とともに劣化していきます。
- ・本製品においてはスタビライザーに付属の銘板に記載の製造年月より10年を目安に、お買い替えをご検討いただきますようお願いします。

銘板は、スタビライザーに付属しています。

型式 SOD-372
○○△△-□□□□□□
新富士バーナー株式会社

○○=製造年(西暦) △△=製造月



製造発売元

新富士バーナー株式会社

〒441-0314

愛知県豊川市御津町御幸浜1号地1-3

TEL0533-75-5000(代) FAX0533-75-5033

http://www.shinfuji.co.jp/

E-mail:info@shinfuji.co.jp

MADE IN JAPAN

2021.2